

2014. 1. 26 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2014年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

XIV. ヘブル書の聖化①「聖化する方と聖化される者は一つ」

テキスト：

「彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであったのです。聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。」(ヘブル 2:10-11)

はじめに：ヘブル書について

1. 目的：
キリストの福音が、旧約の人物や出来事で予告されていた救いの成就であることを示す為（ユダヤ教の締め付けにより動揺していたユダヤ人クリスチャンを励ます為）
2. 著者：
ステパノの思想(使徒 7 章)とパウロの強調(コロサイ 2:14-17)を引き継いだヘレニスト・ユダヤ人と思われる
3. 中心テーマ：
祭司であり、また生贄でもあるキリストが完全な救い(聖化)を成就した

A. 御子における神の最終的啓示(1:1-4)

1. 神は、それまで預言者達を通して語ったが、キリストを通して最終的に語りかけた
2. キリストは、神の栄光の輝き、神の本質の完全な現れ、完全な贖い主である(3節)

B. 聖化する方と聖化される者 (2 : 10-11)

1. キリストは完全な神であった (1 : 5-2 : 9)
2. 同時に、完全な人となられた
 - ・ 私たちの悩みを知り、そこから助け出すため
 - ・ 受難を通して完全な救いを齎すため (9 節)
 - ・ 救いの創始者としてその救いに (私たちがついて行く) 道を開くため (10 節)
3. 聖化する方と聖化される者が一つ (11 節)
 - ・ 聖化する方 (キリスト) と聖化される者 (私達) の元は一つである。それは双方とも、御父という共通の起源を持っているから^{◎◎}
 - ・ しかし、大きな違いは、御子が御父の本質そのものであるのに比べて、私たちは罪によって神の像を失ってしまったことにある^{◎□}
 - ・ 罪に陥った人類を元の姿に戻すために、御子は人の形をとって降誕 (受肉) された☆
 - ・ キリストはその身を生贄とすることで、「完全な聖化」の道を開かれた^守
 - ・ その完成された聖化の業が当てはめられると、内側の変化が齎される。「良心がきよめられて死んだ行いから離れ」 (9 : 14)、「心と思いの中に神の律法が書かれる」 (10 : 10-18) [◎]
 - ・ 「聖化を通して、神と似た者となるということが、子とされるということの、より深い意味である。」それ故キリストは、私たちに「兄弟」と呼んでくださる (11 節 b)。何と素晴らしい特権か！^{◎◎◎◎◎◎}